

永松だより

松源寺開創

500年

平成33年・2021年



みなさまのお知恵とお力を合わせていただき この佳きめぐりあわせを寿ぎましょう

新春のごあいさつ

大蔵山松源寺第三十五世 東海

泰典



新年あけましておめでとうございます。

平成二十七年はひつじ年です。私も四回目の年男となり四八歳になります。

未年は羊ですが、羊は群れをなして行動するため、

家族の安泰や平和をもたらす縁

起物とされています。また、こ

の年に生まれた人は、穏やかで

温かく、優しい。そして正義感

が強く、真面目だといわれています。

大蔵山松源寺も檀信徒の皆様

やご先祖さまに支えられ、開創

四九四年を迎えます。この松源

寺通信『永松だより』も四号目

を発行することが出来ました。前回「泰典和尚のタッ

チダウン」に写真が掲載されましたが、私の背番号

は44番でした。干支の四回目と松源寺通信の第四号

と四(し)が重なりましたが、四四(よし)と解釈

し、いい年になりそうです。

平成二十二年に当山の住職を拝命し六年目となり

ます。今年は先代三十五世再重興智賢孝善大和尚様

の一周忌を迎えます。そして昨年から始めた『3・11



を忘れない―祈りの集い』も行います。昨年はイ

ンフルエンザの為、急遽ビデオ映像での登場となり

ました柴山光由さんの朗読も、今年は生でお聞き頂

く予定です。三月十一日(水)に本堂で追悼のご供

養と永松閣(庫裏二階)で朗読会を開催致します。

松源寺では研修旅行を行っております。平成十九

年より再開のスタートとして大本山總持寺参拝をし

て以来、二十年は鶴岡の善宝寺参拝、二十一年は青

森県の恐山参拝、二十二年

は新潟県の常光寺参拝、

二十三年は大本山永平寺参

拝、二十四年は岩手県の奥

の正法寺参拝を開催して参

りました。松源寺の檀信徒

に限らず友人やご親戚の

方々にもご参加頂いており

ます。

今年は大本山總持寺を開

かれた瑩山禪師さまのお弟子で二代目の峨山韶碩禪

師の六百五十回大遠忌の年に当たります。「峨山道」

と言われる、總持寺祖院と永光寺ようこうじを繋ぐ道がある能

登の輪島市に行く計画です。日程が決まりましたら

告知致しますので、ふるってご参加下さい。

今年もご先祖様のご供養と菩提寺発展の為、ご尽

力とご法愛を頂きますよう切にお願い申し上げます

で、新年の挨拶とさせていただきます。合掌

年頭あいさつ

永松会会長 竹丸 寅夫

四十一年の永きににわた

り菩提寺松源寺をお守り

いただいた三十四世再重

興智賢孝善大和尚様が、

昨年三月二十日西方浄土

へ旅立たれました。悲し

みても余りあることでし

た。

これからは松源寺隆盛

へ向けて役員、そして檀

家の皆様のご支援のも

と、三十五世泰典和尚様

をお支えして参りたいと

存じます。

年頭にあたり皆々様の

ご協力を賜りますよう心

よりお願い申し上げます。

永松会会員

竹丸 寅夫	太田 守
高橋 金雄	丹野 勝雄
木皿 喜吉	小崎 正隆
伊藤 祐之	松屋 茂行
三浦 信久	三浦 正勝
植木 憲郎	

さがたず
探し訪ねて

松源寺の御縁

向山と松源寺、西光院

第4回

矢込瀬を勢いよく下った流れは、左岸の連崖に突

き当たって松源寺と成る。松源寺は伊達家に関係

のなかった寺で、寺格も寺縁もなかった白川家の牌

寺（位牌のある寺）だったからである。白川氏は中

世結城氏以来の旧家で白河関で知られる白河の領主

であったが、天正十八年豊臣秀吉に所領を没収され

て亡びた。それまでは伊達政宗の敵である仙道七将

の一人だったが、義親の代に政宗に帰属した。伊達

家では、かつての仙道の領主で臣属した者をお客大

名と称して、一門の家格を与える慣例だったので、

石川氏、岩城氏などよりもずっとおくれで綱村の代

に一門に列した。松源寺も白川氏の家中寺として大

永元年白河に創建されたが、白川義綱の代に伊達家

から土樋に寺地をもらって、義綱が開基したのが現

在の松源寺である。近くの米ヶ袋は鷹匠の町だった

ので、鷹匠や餌指し（タカの餌の小鳥を捕る小者）

に檀家が多かった。將軍家へ献上した鶴を捕ったと

いう鷹の墓があるのうなずけるであろう。

ここから左岸に低い土樋のガケが愛宕橋下流まで

続いて、流れは昔から変わりなく、このガケについ

て南流するが、広瀬川もようやく下流に近づいて、

もはや唐戸淵付近に見るような高い絶壁は無くな

る。しかし流れはどこまでも淵を連ねて、仙台の言

葉で表現するとノロツとした流れになり、松源寺

淵につづいて大釜、小釜、西光院淵を経て愛宕橋を

くぐる。釜という地名は海岸の方にも相ノ釜、花釜、

原釜とあり、川と海に多い。

二口溪谷の野尻と秋保大滝の

間にある釜淵の地形から判断

すると、深所をいうらしい。

（後略）

*大永元年＝一五二二年

『廣瀬川の歴史と傳説』三原良吉 宝

文堂 昭和五十四年十月十日



鷹の墓（右端）

第二回 この人に会う

竹内廣さんと「はがきの三行革命」

竹内廣さんは郵政事業一筋に奉職され、今は地域

コミュニティの活性化に活躍されています。竹内さ

んは二十歳代後半の頃、大きな経験をしました。郵

便物配達の仕事をしていた頃のことです。毎週木曜

日になると決まってはがきを届けるお宅があること

に気が付きます。そのお宅の門前にはいつもご婦人

がはがきを受け取るために待っていました。そして

ある時、三週間ほどはがきが届かない時がありまし

た。気がかりだったのですが、しばらくたつてから、

そのはがきの差出人が亡くなっていたことが分かり

ました。待っているはがきが届かない、その悲しみ

の深さを想い、一つの便りが持つ意味と、人の心を

届けるこの仕事の重さに思い至り、「一生、はがき

に命をかけよう」と思い定めたのでした。

はがきは明治六年に売り出された商品で、明治四

年に郵政事業が開始されたから、郵便の初期か

ら本当に長い間愛されているコミュニケーション・

ツールであることが分かります。そしてはがきは本

来は「端書」、メモ程度の物。長々と書くことはな

いのです。知る人ぞ知る「はがきの三行革命」は竹

内さんのライフワークになりました。

一、下手でも自分の文字で書く。

二、短く三行で書く。

三、拝啓、敬具などはいらない。

「書くことは考えること、相手を思うことだ」と

竹内さんは言います。今はメールの時代だから、は

がきに戻れとは言わないが、急がない事柄なら、は

がき手紙で発信することを勧めたい。それは相手に

「向き合い」相手のことを考え、自分のことを考える、

大切な時間を過ごすことになるのだから、という切

なる願いがあります。

また、竹内さんは松源寺の「松の木ポスト」の愛

好者です。「今でも時々投函してますよ」とのこと

です。全国のお寺を探してみても、境内に「思いを

書いて自由に投函してください」という場所を提供

している所はどこにもないと思う。「松の木ポスト

のある松源寺」をもっと知ってもらおうと良い。切手

を貼らずに気軽に投函できるのだからと、町内会の

皆様にも利用することを勧めることがあるそうで

成道会

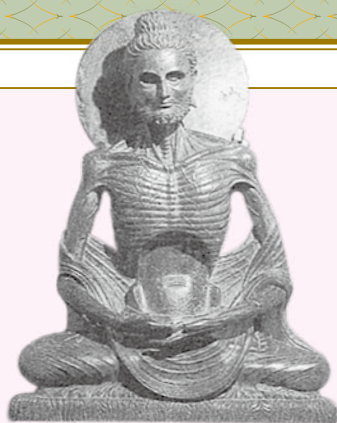
12月8日



お釈迦様を「ブッダ（仏陀）」と呼びすることがありますが、これはインドの古い言葉で「真理に目覚めた人」を意味します。十二月八日は、お釈迦様が真理に目覚めた日なのです。お釈迦様の当時、主に「瞑想（精神を集中する）」と「苦行（肉体を集中する）」の二通りの修行の方法がありました。

お釈迦様はどちらも極限まで修行されましたが、結果どちらの両極端をも離れられ、肉体と精神の調和（中道）によって一体的な安らかさに達する、と証明されました。お釈迦様は菩提樹の下で七日間坐り続けられ、八日目の朝方、明けの明星を見たとき真理に目覚められたのです。これにちなみ、修行道場では十二月一日から八日までを「臘八摂心^{ろうはつせつしん}」としてお釈迦様の修行にならない、集中的に坐禅を行います。

（曹洞宗檀信徒必携 平成二十年）



釈迦苦行像（ラホール国立美術館所蔵）



す。松の木ポストには、「書くことは考えること、相手を思うことだ」という竹内さんの気持ちと通じるものがあるのでしょうか。



竹内廣さんと「松の木ポスト」

また、竹内さんは曹洞宗との御縁もあります。平成六年ころ曹洞宗青年会が書き損じはがきでカンボジアに学校を作ろうという運動を始め、その学校建設の資金を集める方策として、手作り年賀状コンクールを企画したことがありました。当時、仙台中央郵便局長だった竹内さんは、その審査員を引き受けました。

このように、竹内さんは「はがきの三行革命」を広めながら、様々な社会活動に積極的に関わってききました。講演会の依頼も多く、数えてみるともうすぐ六〇〇回に手が届くそうです。七七歳になった今も老人会や町内会や地域の行事にも積極的に参加しています。相手に向き合い、思いやりを持つことの大切さを、穏やかな笑顔で今日もどこかでお話をされているかもしれません。（一九三七年青森市生まれ）

「松の木ポスト」のある松源寺



松源寺山門をくぐって右手に六地藏があります。「松の木ポスト」はその奥の本堂寄りに設置されています。これは、松源寺の立派な松の木が、年を経て枯れてきたため、倒木の危険があったので伐採しました。これを再利用したものです。

「松の木ポスト」として活用するに当たっては、以前秋田で自殺防止の活動に携わった僧侶の事例が参考になりました。残された人々には、自殺により突然居なくなった方へ伝えたい思いが募ります。また、遺族が自分自身を責める事があります。そのような思いを手紙にしたため、ポストに投函することによって癒されることもあるとのことでした。

ご住職は、死別による悲嘆を受け入れてくれる場所として、残された人々が立ち直る場所として、「松の木ポスト」を松源寺に設置しました。そして日常は、心に住む人やご先祖様との交信の場所として利用してもらいたいと願っています。投函された手紙は、他人に知られることが無いように開封されることはなく、お盆にお焚き上げされます。

今回の東日本大震災では、同様に身内、親族、友人、知人を突然亡くされた方がたくさんおられます。そのような皆様にとっても心の支援の場所となればと願っています。

《予告ご案内》

第二回



3.11を忘れない祈りの集い

二〇一五年三月十一日(水) 午後一時開始 会場…松源寺

今回は三部構成です。「お寺さんならではの三・一一だね」と好評だった追善供養。前回体調不良だった為ビデオ出演

だった柴山光由さんの朗読ライブ。注目を集める相馬市出身の新進ミュージシャン堀下さゆりさんのライブ演奏会。犠牲になった皆様を偲びながら、今を生きる私たちの力

となる「集い」にしたいと願っています。平日ではありますすが皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第一部 東日本大震災五周年追善供養 (松源寺本堂)

第二部 朗読会 (松源寺永松閣)

朗読…柴山光由

朗読作品…3・11 慟哭の記録—71人が体感した

大津波・原発・巨大地震

第三部 ミニコンサート (松源寺永松閣)

演奏…堀下さゆり

黙とう 午後二時四十六分

閉会

富山三十四世再重興智貫孝善大和尚

一周忌法要のご案内

平成二十七年二月二十日 午前十時より
松源寺本堂にて

檀信徒の皆様には 右記日程にて法要を執り行いますので、ご参列いただきご焼香賜りたいと存じます

富山三十五世 東海泰典

＊禅の小窓4＊

＊不ふ思し量りよう底てい＊

そのチェルノブイリ視察のルポルタージュを基底とした作品が『神隠しされた街』である。「45,000の人びとが2時間のあいだに消えた サッカーゲームが終わって競技場から立ち去ったのではない 人びとの暮らしがひとつの都市からそっくり消えたのだ……」とプリピャチ市の消失から始まるこの詩は、当時の避難する人々を想い、眼前にある廃墟に人びとの生活を感じ取る。そこで生活しているべき人たちの姿が無いことへの強い違和感。そして福島第一原発の周縁にある自分が住む南相馬市が、原発からの距離も人口も酷似していることを思う。「セシウムの放射線量が8分の1に減るまでに90年致死量8倍のセシウムは90年後も生き物を殺し続ける」

この作品世界が、そっくりそのまま現実となった2011年3月11日。福島第一原発事故の後、詩人は絞り出すように、うめき声をあげるように『ひとのあかし』を世に問うのである。

東京電力福島第一原子力発電所の原発事故から四年目を迎えようとしているが、その収束の目途は全くついていない。福島県から県外への避難状況46,416人(福島県ウェブサイト。平成26年10月31日復興庁データ提供)。

掲載作品:『桜と予言と詩人』(アーサー・ビナード)、『ひとのあかし』『みなみ風吹く日1』『みなみ風吹く日2』『神隠しされた街』『読者のみなさんへ』。

本をよむ 第2回

『ひとのあかし』

詩: 若松丈太郎 (福島県南相馬市在住)、英訳詩: アーサー・ビナード、写真: 斎藤さだむ。清流出版刊。本体1,700円+税



「岸づたいに吹く 南からの風がここちよい 沖あいに波を待つサーファーたちの頭が 見えかくれしている……」と始まる『みなみ風吹く日1』は、その風土をいとおしみながらも、「たとえば」と福島第一原発がおとす影の一つ一つを数えてゆく。その積み重ねられた現象は、原発の安全神話が不毛であることをあぶりだす。「何事も起こらないでほしい」という祈りの声が聞こえてくるようだ。

しかし、チェルノブイリ視察の後に書かれた『みなみ風吹く日2』は、ヒリヒリと焼けつくような、切羽詰まった不安感・危機感が前面に打ち出された作品に変わっている。詩人の揺るぎない定点観測は、原発崩壊の予兆を捕らえる。「2007年11月 福島第1原子力発電所から北へ25キロ 福島県南相馬市北泉海岸 サーファーの姿もフェリーの影もない ……」。

今年の行持予定

1月1〜3日 三朝折禱

松源寺通信「永松だより」4号発刊

26日 高祖降誕会 (大本山永平寺を開かれた道元禪師が生まれた日)

2月15日 釈尊涅槃会 (お釈迦様が亡くなりなれた日)

20日 先住第三十四世再重興智貫孝善大和尚一周忌法要

3月11日 東日本大震災追善法要・3・11を忘れない祈りの集い

18〜24日 春彼岸

4月8日 釈尊降誕会 (お釈迦様が生まれてなれた日)

5月 松源寺永松会総会

6月 松源寺研修旅行

8月13〜15日 お盆

14日 孟蘭盆大施会 (13〜30)

9月 観音堂ご開帳供養・月見のタベコンサート

20〜26日 秋彼岸

松源寺通信「永松だより」6号発刊

29日 両祖忌 (道元禪師・瑩山禪師がお亡くなりなれた日)

10月5日 達磨忌 (達磨さまがお亡くなりなれた日)

11月5日 祠堂法要 (10〜30 昼食)

11月21日 太祖降誕会 (大本山總持寺を開かれた瑩山禪師の生まれた日)

12月8日 釈尊成道会 (お釈迦様が悟りを開かれた日)

松源寺永松会忘年会